



ある方が「新年の楽しみ
の一つは、新しい年のために
買っておいいたノートを開く時
です！」と云われたことを
思い出す。区切りがあるとい
うことは、いいことであるが、
過去から未来に向かつてとだ
えることなく流れる時の中
で、個人について云えば幼児
期・青年期・壮年期等、そ
れぞれの時の中に忘れること
の出来ない「時」が存在する。
昨年3月11日の東日本大震災
と津波、更にその災害を深刻
なものにしている福島第一原
発の事故は、今を生きる誰も
が共有する「時」、これから
も抱え続けていくことになる
「時」となった。

最近、牧師として着任し
た1960年からの「週報」
を少しずつめくっているが、
1976年、中部連合社会部
主催による「食品公害を考
える」学習・講演会が教会
で催され、その時求めた資料
の中に「原子力発電は安全か」
というのがあった。その時の
講師、日本消費者連盟の事務
局長だったA牧師（現在福岡
在住）にその頃のことをもう
少し聞きたく思っって電話をす
ると、

ぐって」のコピーを、今取り
組んでいる「玄海原発訪問記」
とともに送って下さった。そ
の記事を読みながら、改めて
過ぎ去った40年余を思った。
現在、日本列島の23ヶ所に54
基の原発（運転中19、停止中
31、建設中4）があり、既に
廃炉となったものが8、計画
中のものが9基あることを、
昨年6月11日付のA新聞の
「原発列島ニッポン」を見て
初めて知った。設置場所はい
ずれも海に



新しい年の中で・共に

近く、比較
的人口の少
ないと思わ
れる地域で
ある。安全
と云われて
きた原発で
あるが、一
度事故が起
きると、そ
の被曝と放
射能汚染の
影響は、深
く広く拡散
し、長期に
亘って人のいのちと生活を脅
かすことになる。

聖書（旧約）の創世記に「天
地創造」の物語が記されてい
る。非常に壮麗である。そ
の中に、神がすべてのものを
創られた後、ご自分のかたち
に似せて人を創られ、それら
を治めることを望まれたとあ
る。創られたものという意味
では、人もまた生態系の一つ
である。ただ他と違うのは、

神に呼応するものとして創ら
れているということである。
この世の中には「何故」と
幾度問いかけても答えのない
事実が数多くある。社会館の
使命の一番目に「すべての
人々が、かけがえのない存在
として人権が保障され、自立
した人間として成長していけ
る社会を築くことをめざしま
す。」とあるが、この活動は「使
命」という意気、忍耐、喜び
がないと、とても続けられな
い。なぜならいつも福祉の仕
事は社会の中で最も共感の少
ない、後まわしにされる現実
があるからである。

イエス・キリストの言葉の
中に「あなたがたによく云っ
ておく。わたしのこれらの最
も小さい者のひとりにしたの
は、すなわち、わたしにした
のである。」という言葉があ
るが、この中に父なる神の思
い、み心を覚える。震災支援
として、社会館から延べ20日、
25名の職員が4回に亘って派
遣された。日々多労の中から
である。人々の現実の中で「何
故」の言葉は消えることなく
あると思うが、このことを通
して、人には分らないが、
すべてを見通しておられる神
の存在、領域があることに心
を向けて頂きたい。私を見て
おられる方を知るといふこと
は、日々の歩みに暖かさとし
が引き出されることをお伝え
したい。

理事長 池田 巍義

菜の花保育園
子育てセンター菜の花
名古屋のびのび子育てサポート事業
子どもたちの笑顔を守り続ける保育園として

産休明け5ヶ月の赤ちゃんから、
「もうすぐ小学校！」と期待いっ
ぱいの5歳児まで、166人の子
どもたちと新年を迎えました。保
育園の待機児童最多の名古屋市に
おいて、菜の花保育園でも、入園
の問い合わせが絶える事なく寄せ
られています。
お父さんやお母さんが安心して
就労し、子育てが出来る為には、
保育園の数をもっと増やす
事が必要です。
創立50年を過ぎ、皆さんに支え
ていただきながら大きくなってき
た菜の花保育園です。これからも、

名南ユースセンターACT
ちどり児童会

人とのつながりを大切に
ちどり児童会は、お父さんやお
母さん、千鳥学区の公職者の方々
を始め地域の皆さんに支えられな
がら運営をしている学童保育所で
す。9月に開催した運営委員会で
は、「学童の子どもたちはゲーム
機等の物がなくても遊びを作り出
す力がある」「自分たちで考えて
遊びを作り出すという事は、社会
に出ても大切でとてもいい経験を
している」とのご意見をいただき、
保育の励みとして、とても嬉しく
思いました。
「人とのつながり」、昨年はこの
言葉をあらためて振り返り、その
意味を確かめ合う年でもありまし
た。学童の子どもたちも、外に出
て地域の方や学校の友だちと触れ
合い、日常の遊びや取り組みを広

献金・協賛報告
ご協力頂いております方々のご芳
名を掲載し、報告とお礼とさせて頂
きます。（敬称略・順不同）
9月10日〜12月6日

- ＜クリスマス献金＞
高橋昭彦、真木芳子、杉本節子、原
和美、岩田悦、松岡紀生、松井武男、
近藤京子、菅原美恵子、柿坂和代、
秋野勝紀、三口妙子、田中武之、大
塚郁夫、近藤義雄、池田巍義、仲義
和、長谷川武夫、田口恵美子、早川
みどり、井元産業株式会社、松田チ
サ子、宍戸健夫、クリスチャン親和
会、上田英二、名古屋聖ヨハネ教会、
和木しず子、豊島徳三、小林芽子、
武田美和子、石井要、益田貴美子、
松山良、尾関明、坂本康信、河野登
喜子、高橋昭彦、鈴木美子、加藤峯
子、笠嶋建築工房、笠嶋淑恵、オリ
エンタルビル株式会社、磯部徹、田
村富士雄、浅野基明、尾崎信、寺川
八重子
＜一般献金＞
要一南公民会、要一北公民会、清八
重子、佐々木一雄、秋野勝紀、鳥井
一夫、小谷治郎、賀川督明、中澤洋
益田貴美子、石井要、クリスチャン
親和会、石田淳子、田中友安、田中
澄子、勝沼功、小川功、中田照子、
植田望、藤沢光子、熊田賦、米国実
業家協会
＜東日本大震災支援活動のための募金＞
吉田章子、岩田悦、藤沢光子
＜事業所指定寄付＞
加藤峯子（東部地域療育センター）
谷川修（東部地域療育センター）

TEL 612-1346
FAX 611-9085

TEL 612-3361
FAX 612-8893

（楠木 徹）





仲間たちと共に

1993年に支援費制度が、1996年に自立支援法が施行され、障がいのある仲間たちがヘルパーを利用して外出をする「ぴぼっと」も障がいのある仲間たちと出かけ、共に余暇を楽しむ取り組みをしています。「ぴぼっと」だけでなく、仲間たちの余暇支援をしている事業所も増えてきています。休日に町を歩けば、障がいのある仲間たちとヘルパーを見かけることが多くなってきました。

すの人も使いやすい所にお金の投入口が付き、至る所でだれもが使いやすいトイレができるようになってきました。障がいのある仲間たちだけでなく、だれもが住みやすい街に変わってきているような気がします。

今年も仲間たちが過ごしやすくなった地域の中で、自分らしい生活を創っていきけるよう支援をしていきたいと思いをします。

(管理者 神谷 友之)

TEL 613-1306  
FAX 746-0873



安心して暮らせる地域作りを

障害を持った方が地域で「生活する」ということは、お困りごとを1つ解決するだけではなく、ご本人やその周りの環境など、いろんな事柄から成り立っているのだなあ、と日々実感しています。食事のこと、生活のこと、仕事のこと、余暇のこと...など、日常が細切れではなく、全てつながっていることを改めて確認しています。

変わります。ご本人が望む生活を一緒に考え、それを実現するお手伝いをしていきます。また、南区内にも、相談支援事業所がいくつかできるので、そのみなさんとも協力し、相談がより身近なものになり、安心して暮らせる地域づくりをめざしていきたいと思いをします。

(林 美樹)

TEL 613-1307  
FAX 746-0870

社会館バザーへのたくさんのご来場

ありがとうございました

届けたいこの想いを東北へ

♡2011 社会館バザー♡

今年のバザーは東日本震災復興支援を大きな柱にして11月23日に盛大に行なわれました。中央舞台では東北活動支援報告や東日本震災復興応援歌「♪だいじょうぶ」(アイノオンプス)の歌声が会場に響きわたりました。また、当日は天候が心配されましたが、たくさんの方が参加してください、どこのお店も大盛況でした。

収益 763,657円

今回の収益は、主に社会館がかかわる震災復興支援活動のために、一部を赤十字、ユニセフの寄附に使わせていただきます。地域の皆さん、保護者の皆さんのご理解、ご協力ありがとうございました。

21世紀キリスト教社会福祉実践会議第8回大会

テーマ 東日本大震災を受けて 改めて今を生きる人々に寄り添う  
—キリスト教社会福祉実践とは—

とき 2012年2月18日(土) 10:00~16:30

ところ 日本福音ルーテル東京教会(新宿区大久保)

内容 基調講演「キリスト教社会福祉の原点をたずねて」

講師: 森 一弘氏(21世紀キリスト教社会福祉実践会議代表)  
パネルディスカッション

参加費 一般 2,000円 学生 1,000円

\*参加費は、東日本大震災復興支援の寄付となります。

東日本大震災によせて 第7回天白川展

時と場所

2012年 2月24日(金) 25日(土) 26日(日) 名古屋市営地下鉄原駅ギャラリー  
3月3日(土) 4日(日) 南区「アーチ柴田」(柴田本通りバス停前)  
3月8日(木) 9日(金) 10日(土) 日進市にぎわい交流館  
\*いずれも開設時間は 10:00~17:00

展示作品募集中(2012年2月10日まで) 天白川にちなんだ絵画・写真など  
10日(土) 16:00から「東日本大震災を語り継ぐ市民の集い」開催予定

震災による被災で愛知県に避難された方の  
ふるさと交流会 In Nissin が開催されました

10月29日(土)晴天の下、愛知牧場を会場に、県外避難されて愛知県下にお住まいの20世帯62名の方と、受け入れボランティア80数名によって、盛大に開催されました。日進市長も駆けつけて激励。パーベキュー、名物のソフトクリームに舌鼓をうち、子どもたちは、学生ボランティアと牧場内で楽しくあそび、大人は、南山教会の集会所にてゆっくりと語り合いの時をもちました。教会婦人会の皆さんが手作りゼリーとコーヒーで歓待下さいました。

今回のとりくみは、YMCA、YWCA、AHIなどの関係団体と、地元日進とその近郊の市民グループの皆さん、ワイズメンズクラブなどと幅広く実行委員会を組んで行われました。

いつふるさとに帰れるのか、その目処も一向にみえないという厳しい状況が続く避難者の皆さんが、同じ立場の方同士、このように膝を交えてじっくり話し合える場合は、今後必要なのだと改めて痛感しました。

社会館としては、多くの志を同じく方々とともに、今後も県外避難者の交流会を続けていきます。



苦情申し出の窓口

苦情の申し出窓口は、各事業所掲示板等に掲示しています。苦情受付者は主任、解決者は事業所長が基本です。

法人への苦情は、  
本部事務局  
612-3370  
へお願いします。

また、法人職員ではなく、第三者の立場として苦情を受け、より良い解決へと導く立場の者として、第三者委員を選任しています。

第三者委員は、  
加藤 考一 613-2718  
小林 冴子 611-0401

編集後記

日本全国が沈黙した昨年。何をできなかった人も、何かしたくてできなかった人も、「充実した一年」だったと振り返る2012年になる

一つひとつの施設や事業に関する利用者さん、職員みんながそう思えるように、社会館の働きも歩みを止めず創造していきたい。(A.S)